

カイニョ見学会や掃除・講座をやるう 新役員選出一副代表幹事に山村さん

5月25日午後、旧中島家（チューリップ公園）の広間で、18名が参加して総会を開いた。平成25年事業として、カイニョ見学会、掃除、講座等を確認し、柏樹代表幹事等の新役員を選出した。総会の後、砺波農林振興センター森林整備課長・山下大樹氏の「里山林の現状と屋敷林」を聞いた。

総会は、柏樹代表幹事が挨拶（別掲）、天野事務局長が平成24年度報告と決算報告を、杉森孝一氏が監査報告した。事業報告の中で、「カイニョと福野高校の森見学会」を夏休みに子供たちの参加を願って計画したが、その意がはずれたこと。10月の元井甚正宅の植樹会は倶楽部の総力をあげて「風に強いカイニョ」案で31名の参加で実行し、市との協調したとりくみとして注目された。

平成25年度事業として、6項目を提案し、この中で新会員を広める工夫と努力をもとめた。意見として、「小学生を対象にカイニョ通信を送ることで親も加わった流れが作れないか」と提案され、工夫や手続き、学校掲示板の利用、自前の努力などの意見が出された。

○新役員

代表幹事 柏樹直樹 副代表幹事 山村忍
幹事 高畑邦男、小幡良和、堀浩一、金岡奈穂子
監事 杉森孝一
事務局 天野一男、高畑康子、大甲りえ

○平成25年度事業計画

1. 総会
2. カイニョ見学会
3. 県外のカイニョと生活文化見学会
4. 樹木の手入れ実習
5. カイニョ掃除
6. カイニョとの付き合い講座(旧中島家)

その後、講演会に入り、4時過ぎに総会は終わった。 (講演会の様子)



「里山林と屋敷林」山下大樹課長 おはなし要旨

- ・八尾出身・昭和40年生まれ。木材加工専門。砺波事務所に10年勤務
- ・森林を知る—日本の森林比67%（世界31%）、県の森林率67%（天然林82%）
日本の人工林比40%（富山県12%）
- ・日本の1年間の森林使用7千万m³（東京ドーム60杯分）その自給率26%
- ・総成長量は、年間1億m³
- ・里山林の現状—里山にある森林で暮らしと深くかかわり利用してきた。今は使われなくなった。林から森になり、竹林の管理不能（昭和50年の2倍になった）
- ・平成16年の熊の大量出没—里山林を見直すきっかけに：森林が人と遮断した形の見直し。
- ・混交林。里山林づくりに「森づくり税」が使われる。
- ・地域での管理体制が取れなくなった—森林ボランティアの支援
- ・屋敷林も個人の所有物だが、不在になると地域サポートが必要。
- ・優良無花粉スギをつくり、実用化に入った。平成4年に発見。平成24年林業苗5千本出荷。平成28年4万本目標。

たくさんの質問・意見が出された。主な内容は次のとおりで親切に答えられた。

- ・竹林の伐採後はどうするのか。スギ中心のため谷が暗くなり、景観が違って来た。
- ・無花粉スギに遺伝子組み換えのような心配はないのか。
- ・海外から木材が入って、日本の森林が使われないことがTPPでもっと悪くなるのではないのか。
- ・山林労働者も地元出身者でなくなっているのでは。

——柏樹代表幹事の挨拶——

- ◆カイニョは人が一緒に付き合っていてこそ本物、カイニョは人がつくってきた。
- ◆そのカイニョの「耐えながら、ともに生き、働きつづける」姿勢や生き方に人は毎日教えられている。
- ◆平成24年度の倶楽部の収穫は「風に強いカイニョ」を提案・実行したことで、行政からも注目。
- ◆16年間活動してきて「あき」「新会員の入会がない」ことで、後ろむきになったり、活動を大幅に変えたらといった声もあるが、あまりあせらず、カイニョのペースに近づいた活動を続けよう。
- ◆とにかく「カイニョ人間」をつくることが一層求められている。

<カイニヨ掃除> 植えた木も元気。林内すっきり

4月6日午前中、高畑邦男さん宅（砺波市秋元）のカイニヨ掃除を行った。

南風の予報も出ていた中、心配しながら作業に入ったが、広い林内の全落枝葉をクマデや竹ボウキで集め、担架で裏の田に運び燃やし終えた。

13名の参加者は、手際良く体を動かし、心地よい汗を感じた。

高畑さんは、前日から腰痛になり、やっと火の番をしながら「あつという間に林内をすっきりしてもらい、感激ですワ。本当に有難かった。」

高畑さん宅をカイニヨ掃除の家にした理由は、6年前に風に強いカイニヨをもとめ異樹種の苗木を倶楽部の提案で植えたその後を皆んなで確かめることになった。屋敷内に植えた、タブ、ウラジロガシ、シイ、クス、ケヤキ、スギ、ヒバ、ネズミモチ、ヤブツバキ等47本のほとんどが活着し少しずつ成長していた。3本枯損し、クス、タブの葉が寒害を受けていた。

日陰でも育つタブ、ウラジロガシ、シイ、ヒバがこれからどうなっていくのか注目したい。

二時間余りの掃除の後、前庭でお茶を飲みながら懇談した。林節夫さんは、大学で環境の研究をしてきてカイニヨに関心を持っていることや、「福光の干柿研究」をした本を紹介された。

石崎勝紀さんは「小杉の鍔絵のまちなみ」パンフを各人に渡し、それにかかわってきた話を。また、出町小学校にナマコ壁の一部があり、それを見たいといっても見ることができない事情があることも話題になった。

林内にクマ手やホウキ目が見られる瞬時の爽快感をお土産に昼近く散会した。

お知らせ

散村を八乙山から遠望する見学会を砺波郷土資料館が主催。
参加して下さい。

- (1) 日時 : 平成25年6月9日(日) 午後1時~5時(雨天中止)
- (2) 集合 : 砺波郷土資料館 12時30分
- (3) 申し込み : 6月6日(木)まで 0763-32-2339
- (4) 参加費 : 1人 500円
- (5) 服装 : 山を歩く服装、雨具

出町小学校にある「なまこ壁」

4月24日 石崎勝紀さんの案内で出町市街地内にあった旧近藤家の「ナマコ壁」の一部を見学した。蔵の壁の一部を切り取り、出町小学校のランチルームに保存展示してあるもので、倶楽部の会員4人が参加した。時間がたつにつれ「ナマコ壁」の展示意味も、内容も経過もわからなくなっていて、先生も困っていることが知らされた。

さっそくそこに至る流れや意義をまとめ冊子にして届けること、ダイジェスト版のチラシをつくり、子供たちにも知って受け継いでもらうことに供する準備をすることにした。

また、今のままより、新図書館建設にはそこに組み込み自由に市民の目に入るようにする提案も前向きに生かしてほしいものである。

石崎さんは、鍔絵作家であり、古い壁の技術伝承、修理に尽力されている方であり、カイニヨ倶楽部の会員である。



ランチルームに展示



展示された「なまこ壁」